



豊かな心を高める

校長 垣崎 晃

あけましておめでとうございます。保護者の皆さま、地域の皆さまにおかれましては、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしく願いいたします。

土曜日、日曜日、祝日を含め、17日間の冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。子どもたちは新年を迎え、決意を新たにしているところかと思えます。

さて、子どもたちから、「学童擁護の方におはようとあいさつしたら、笑顔であいさつしてくれました。明日も元気にあいさつします。」「この間、道を聞かれたので教えたら、ありがとうございますと、とても丁寧にお礼を言われました。」と日々の学校生活のなかで、子どもたちがいろいろな話をしてくれます。心があたたかくなる話です。日々の生活のなかで、子どもたちは様々なことを感じています。学習で、清掃で、給食で、係活動で休憩時間に友達とのつながりで、地域の方とのふれあいのなかで等、豊かな心を感じます。

道徳が教科化され、5年が経ちました。豊かな心を育てていく、よりより人になっていく生き生き輝く人になっていく、すてきな教科が道徳です。そして、道徳学習は全教育活動の要です。いっぱい感じた豊かな心を、道徳の時間に教材を使って、道徳的心情に統合・深化させていくのです。本校では、子どもたちが、自分たちでいろいろ考え合っていくなかで、豊かな心の大切さに気付いていくことができるように、授業の中で範読や発問などの工夫をしています。

子どもたちにたくさん体験的な活動をさせていくことで感じる心が育っていきます。おうちで手伝いをしっかりしていくことで、役に立っているんだという思いになります。その自己有用感が豊かな心を培うのにとっても大切なのです。子どもたちはさまざまな場でいろいろなことに気付き、感動していきます。気付き、感動したら、子どもたちは話したくなります。それをできるだけ聞いてあげてください。何か仕事をされている途中でも、仕事をしながら聞いてあげてください。時には「そうなんだ」と驚いてあげてください。その共感が大切です。家庭・地域・学校が一体となって、子どもたちの豊かな心を育てていきましょう。